

もも・ネクタリン特報

【定期散布】

- ・隣接する園地や収穫中の作物に飛散しないよう十分注意する。
- ・ももとネクタリンの混植園は、ネクタリンの防除を実施する。



もも

散布時期：前回散布から15日後（8月9日～8月19日頃）
＊晩生種（川中島白桃等）で除袋間近な場合は、除袋後に散布を実施する。

散布薬剤： 水	100ℓ	<table><tr><td>散布日</td><td>8月</td><td>日</td></tr><tr><td>散布量</td><td></td><td>ℓ</td></tr></table>	散布日	8月	日	散布量		ℓ
散布日	8月		日					
散布量			ℓ					
展着剤	20ml							
オーシャインフロアブル	50ml（前日、3回）							
サムコルフロアブル10	20ml（前日、2回）							

対象病害虫：灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ

10a 当り散布量：600ℓ

【注意事項】

① ハダニ類が発生している場合は、スターマイトフロアブルの2,000倍（前日、1回）を加用する。

② シンクイムシ類、（ミカンキイロアザミウマ）の発生が心配される場合は、サムコルフロアブルに代えて、エクシレルSEの5,000倍（前日、3回）を使用する。

ネクタリン

散布時期：前回散布から15日後（8月5日～14日頃）

散布薬剤： 水	100ℓ	<table><tr><td>散布日</td><td>8月</td><td>日</td></tr><tr><td>散布量</td><td></td><td>ℓ</td></tr></table>	散布日	8月	日	散布量		ℓ
散布日	8月		日					
散布量			ℓ					
展着剤	20ml							
オーシャインフロアブル	50ml（前日、3回）							
サムコルフロアブル10	20ml（3日前、2回）							

対象病害虫：灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ

10a 当り散布量：600ℓ

【注意事項】

① ハダニ類が発生している場合は、スターマイトフロアブルの2,000倍（前日、1回）を加用する。

② シンクイムシ類、（ミカンキイロアザミウマ）の発生が心配される場合は、サムコルフロアブルに代えて、エクシレルSEの5,000倍（前日、3回）を使用する。

次ページには、収穫予想、管理情報、が掲載されております。

収穫の際は、まず食べてみて味を確かめましょう。（熟度優先）

明らかに地色が残る未熟果は、収穫しないようご注意ください。

成熟は前年よりも5～7日程度早まると予想されます。

除袋・反射マルチ・葉摘み等の管理作業は、早めに進めましょう。

1. 収穫開始予想

直前の気象条件により前後します。下表を参考に、果実の状況を見て収穫適期を判断しましょう

＊猛暑が続くと、成熟が遅れる傾向があります。また、収穫期間が長くなる傾向があります。

＊樹勢衰弱が見られる場合は、熟期が早まります。

	品種名	南部地区	平岡地区
もも	なつっこ	8／6～	8／8～
	川中島白桃	8／20～	8／22～
	黄金桃	8／22～	8／24～
ネクタリン	晶光	7／30～	8／1～

2. 除袋終了目安

＊果実の地色の抜け具合を確認し、除袋をすすめましょう。

品種	目安
なつっこ	間に合い次第
川中島白桃、黄金桃	8／10～12頃

3. 新梢管理について

樹冠内部や主枝・垂主枝の背面から発生した旺盛な徒長枝は、成葉4～5枚残して摘芯する。

樹勢が弱い樹は過度に摘芯するとさらに樹勢低下を招くので、できるだけ新梢は切らない。

4. 灌水について

7／9以降、降雨がなく乾燥状態が続いているため。土壌の状況を見ながら、適宜、灌水を実施する。

収穫直前の品種は灌水すると食味（糖度）に影響があるので、灌水量を抑えるか、灌水を控える。

5. 反射マルチの利用

高温による果肉障害（軟化）対策として白色マルチ・タイベック等を活用しましょう！

★大部分の果実は下を向いています。樹下から紫外線をあて着色向上を！！

白色マルチ「タイベック」を使用すると、着色向上促進だけでなく、成熟の極端な進みを回避できます。

【使用時期】・なつっこ、川中島白桃、黄金桃など着色しやすい品種 ＝ 収穫5～7日前

・山根白桃など着色しにくい品種 ＝ 収穫10～12日前

枝折れが散見されます。支柱立て等を実施しましょう。